

# ラパスの便り

鳥大メキシコ海外実践教育カリキュラム

⑤

安藤 孝之

「元気で」と元 ユース、リサイクル  
気な声が返ってきた。や「もったいない」な  
「コモエスタン？」 今日レオナ・ピカリ どごみ問題についての  
（元気ですか）と声を オ小学校を訪問して、 生徒たちの意識調査が  
かけると、「ムービエ 3R（リデュース、リ 目的だ。

## もったいないの心 伝える 20人の生徒とエコ活動



手作り紙芝居を手に子どもたちと記念撮影

ラパスには観光客が多敷訪れるが、水不足のほか、さまざま問題を抱えている。これらの問題を解決して、より良いラパスのための取り組みを行うことの実習の大きな目標だ。  
ラパスの海岸通りに観光客や清掃作業員にインタビューすると「メキシコ人がごみを捨てて困る」との現状が分かってきた。学生たちは、ごみが捨てられないようにするヒントを得るために、手作りの紙芝居を抱えて小学校を訪問（ごみの減量やごみを捨てないよう）と訴え  
た。その後は校庭のごみ拾い。ごみ袋を受け取る20人の生徒は、先を争ってごみ集めを始めた。  
最後に「今日覚えた日本語は？」と生徒に聞いた。その返事は「Mottainai」。  
最終回の実習では学生が自ら課題や調査方法を考えて活動し、多々のことを得たよつである。このような活動を通してよりよいまちづくりを貢献するとともに、両国の友好が一層深まれば幸いだ。（鳥取大学乾燥地研究センター）